

平成16年5月31日
共 同 会 議

アレルギー物質を含む食品表示制度に関して

(厚生科学研究食物アレルギー全国モニタリング調査の結果を踏まえて)

(独) 国立病院機構相模原病院臨床研究センター
アレルギー性疾患研究部長
海老澤元宏

アレルギー物質を含む食品表示制度の背景

- 平成13年4月の食品衛生法の改正は平成9年、10年の”食物アレルギー対策検討委員会”のデータをもとに厚生科学研究の”食物アレルギー研究班”（主任研究者:海老澤元宏）において検討された試案に基づいている。
- 平成9年、10年の調査はレトロスペクティブな調査であったので、記憶バイアスがいっている可能性を考慮しプロスペクティブにデータを収集して表示制度の整合性を検証するために食物アレルギーモニタリング調査が食物アレルギー研究班において平成13年と14年に行われた。
- 3ヶ月毎に「食物摂取後1時間以内に発症した食物アレルギーによる有害反応」を医師が診療した症例をプロスペクティブにモニターした。

食物アレルギーモニタリング調査に関して

- **全国の2000名以上の医師の協力を得て行われた大規模調査を2年間にわたって行った。**
- **2年間の成果として3822症例が集まり年齢・原因食品・症状・検査データなどが解析された。**

調査方法

日本小児アレルギー学会員(2425名)、日本アレルギー学会認定・専門・指導医(1778名) に対し調査の主旨を説明し、調査協力の同意を得られた2011名(第2回調査時)を調査協力者とした。

協力者には葉書調査票を3ヶ月毎に郵送し、プロスペクティブに調査を行った。調査は平成13年1月1日~平成14年12月31日に行った。

☆調査対象

「何らかの食物を摂取後60分以内にその食物に対しアレルギー症状を呈し、かつ医療機関を受診したもの」

調査対象及び結果

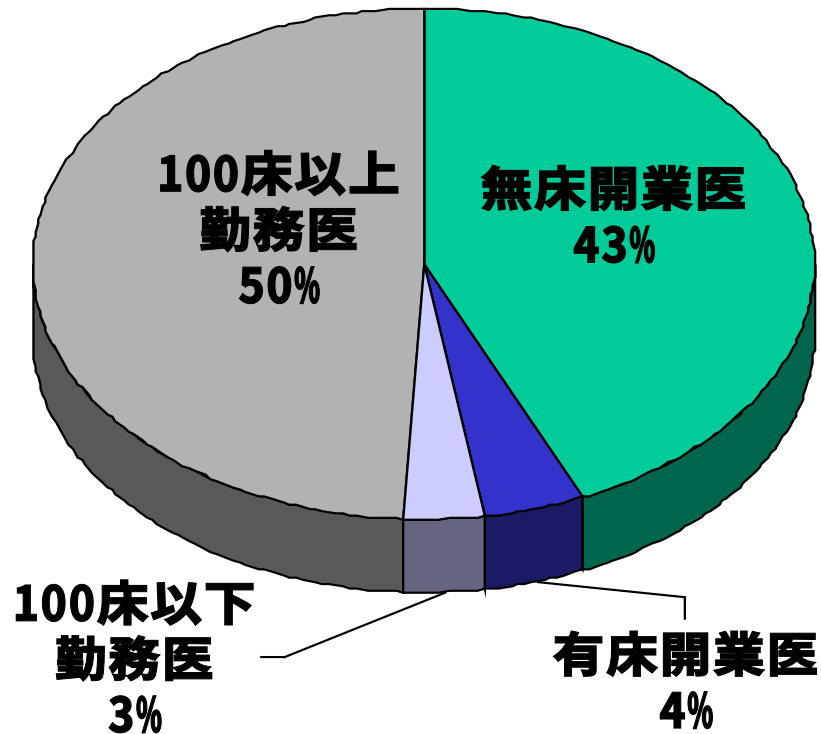
	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回
調査期間	平成13年 1月~3月	4月~6月	7月~9月	10月~12 月	平成14年 1月~3月	4月~6月	7月~9月	10月~12 月
対象	1430名	2011名	1991名	1988名	1986名	1975名	1972名	1958名
回答	905名 (63.3%)	1236名 (61.4%)	1149名 (57.8%)	1062名 (53.6%)	942名 (47.4%)	820名 (41.5%)	880名 (44.6%)	691名 (35.3%)
症例 有り	235名	338名	398名	311名	251名	292名	254名	125名
症例 数	430例	596例	789例	479例	415例	495例	430例	206例

2294例

1546例

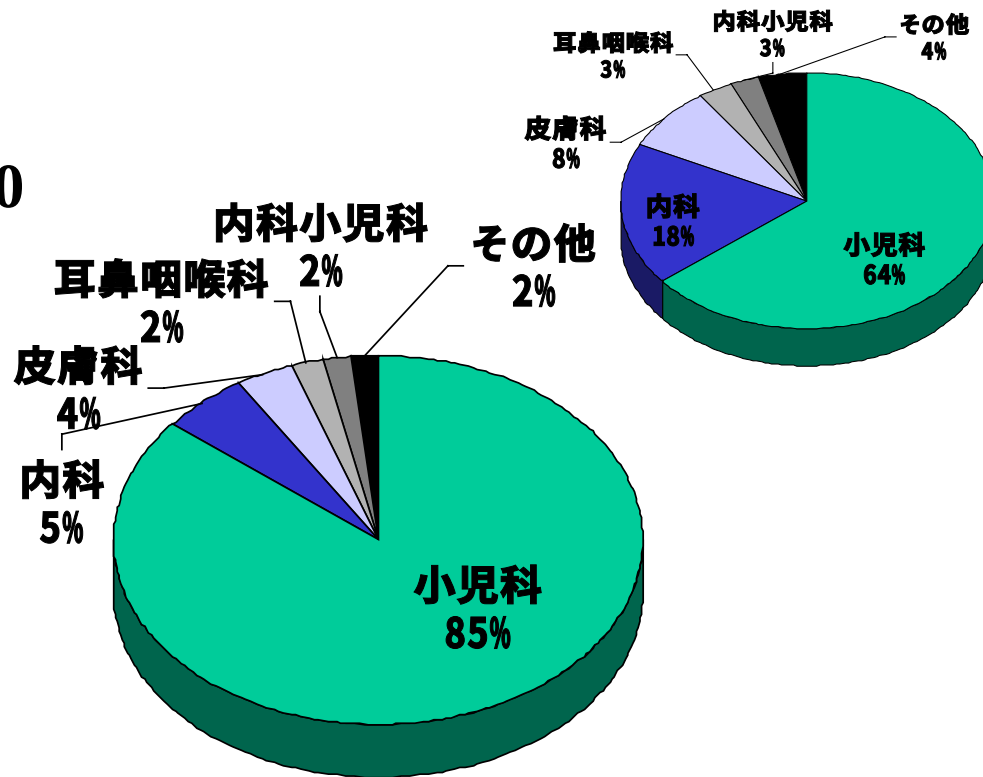
受診した医療機関

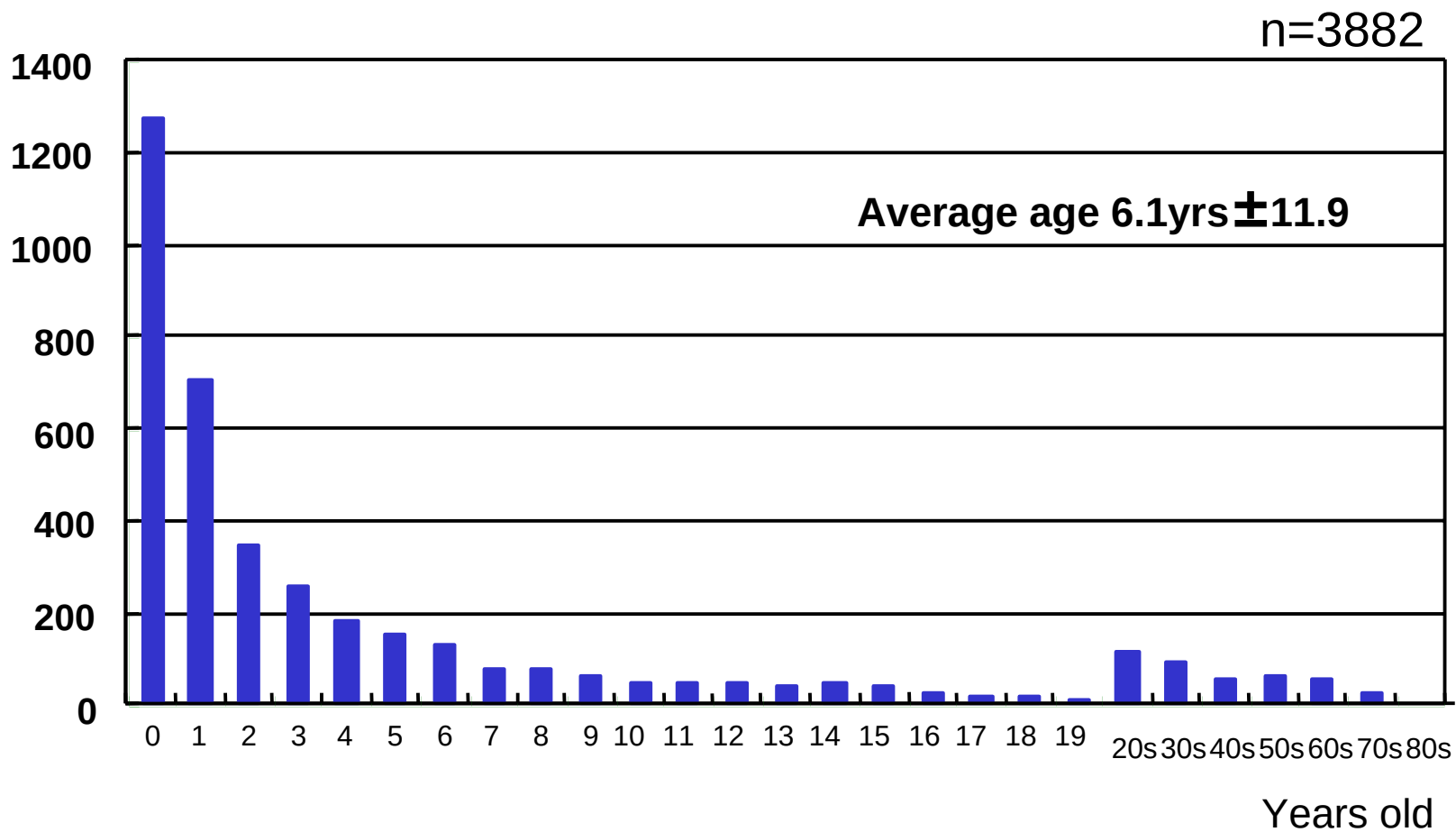
N=3523



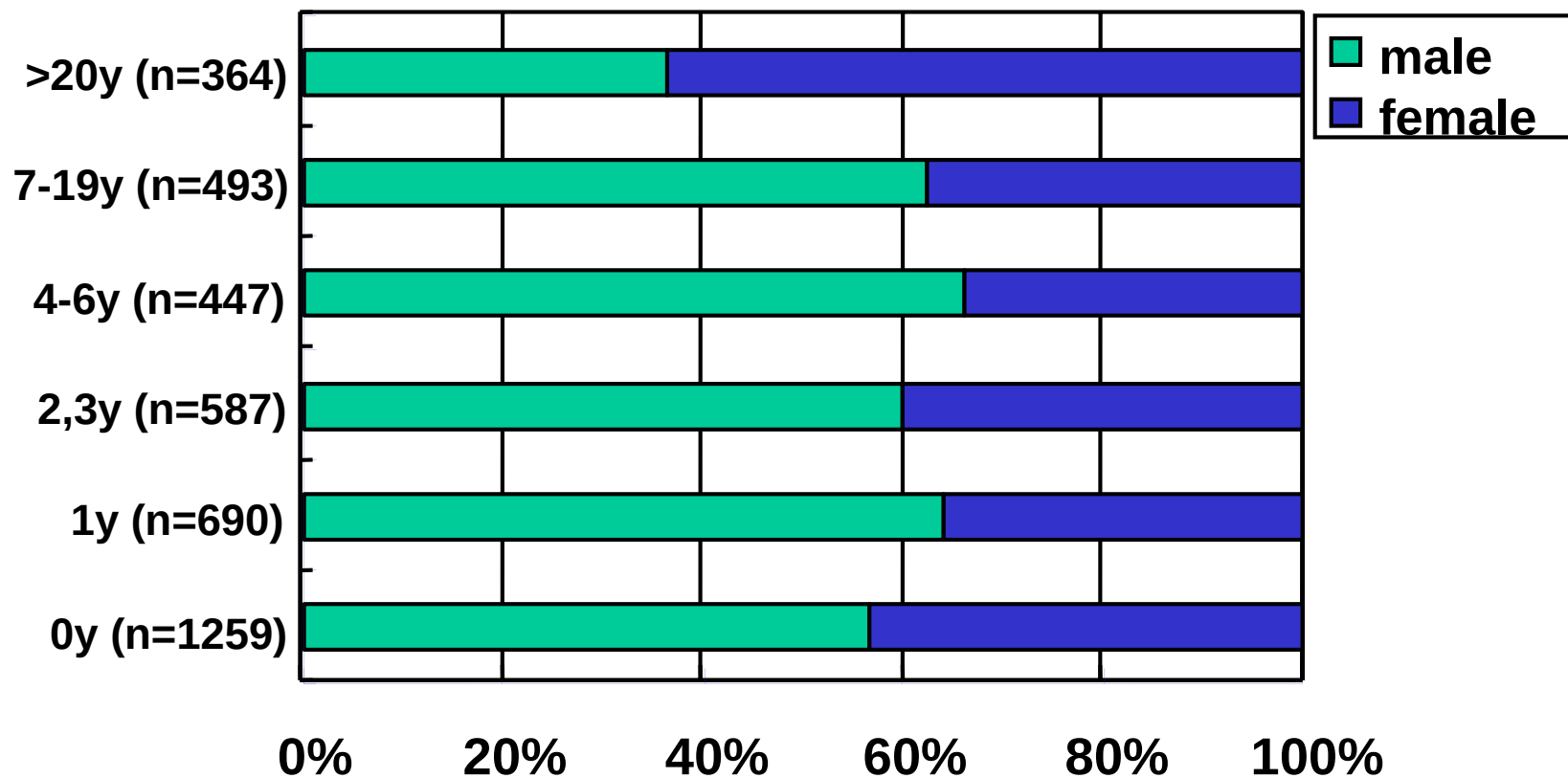
受診した専門科

N=2800

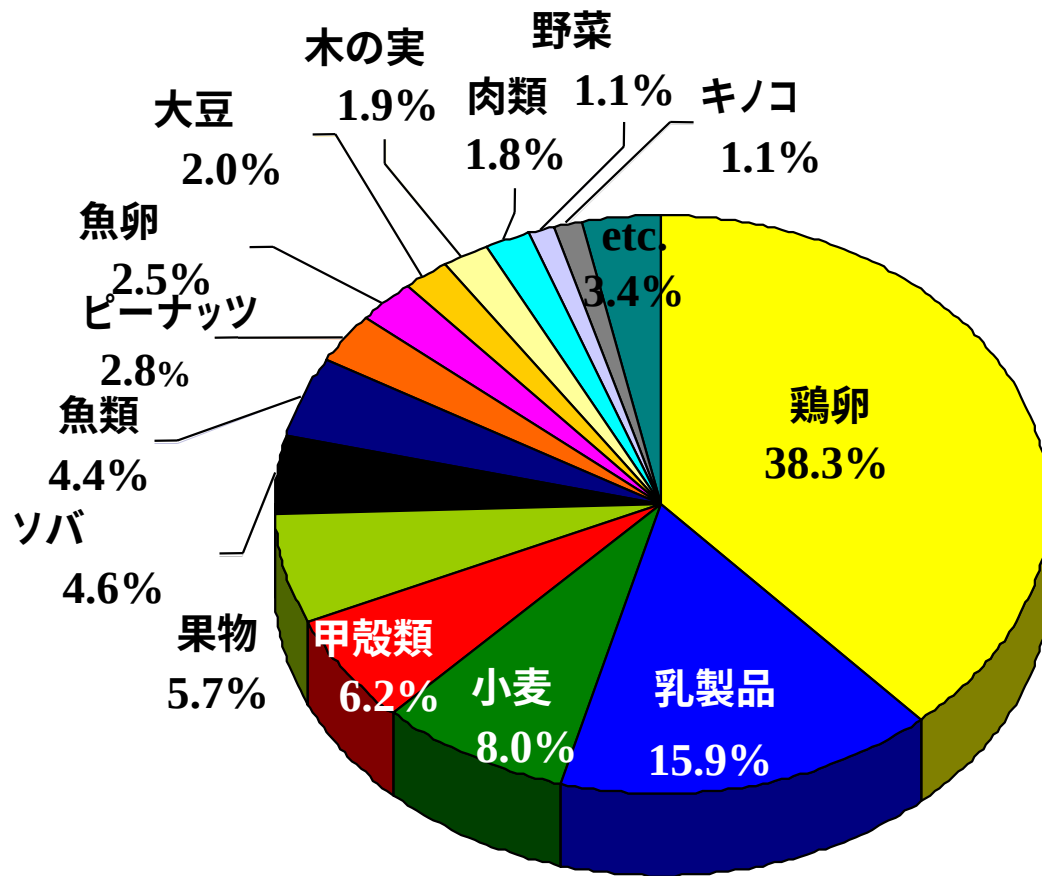




患者の年齢分布



各年齢群での性比



n=3882

食物アレルギーモニタリング調査全体としての原因食品

果物(n=232)		魚類 (n=171)	
Item	n (%)	Item	n (%)
Kiwi	75 (32.3)	Mackerel	24 (14.0)
Banana	40 (17.2)	Salmon	22 (12.9)
Pear	14 (6.0)	Tuna	13 (7.6)
Apple	10 (4.3)	Cod	11 (6.4)
Peach	8 (3.4)	Horse mackerel	10 (5.8)
Grape	8 (3.4)	Sardine	8 (4.7)
others	77 (33.4)	Amberjack	6 (3.5)
		others	77 (45.1)

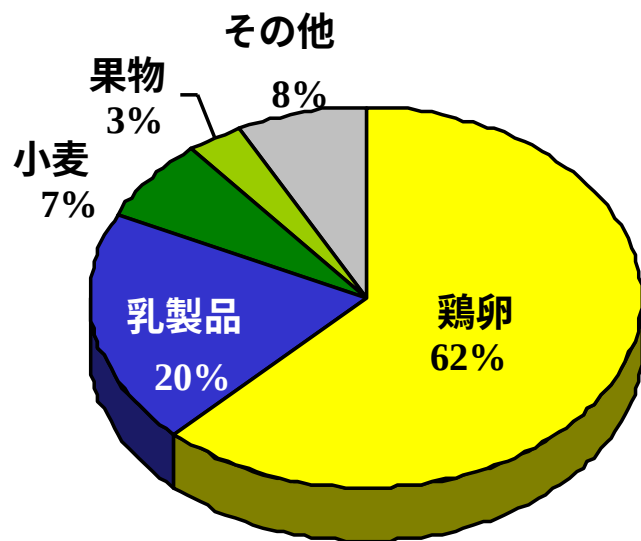
果物および魚類の内訳

shellfish (n=241)	
Item	n (%)
shrimp	161 (66.8)
crab	40 (16.6)
scallop	10 (4.1)
others	30 (12.5)

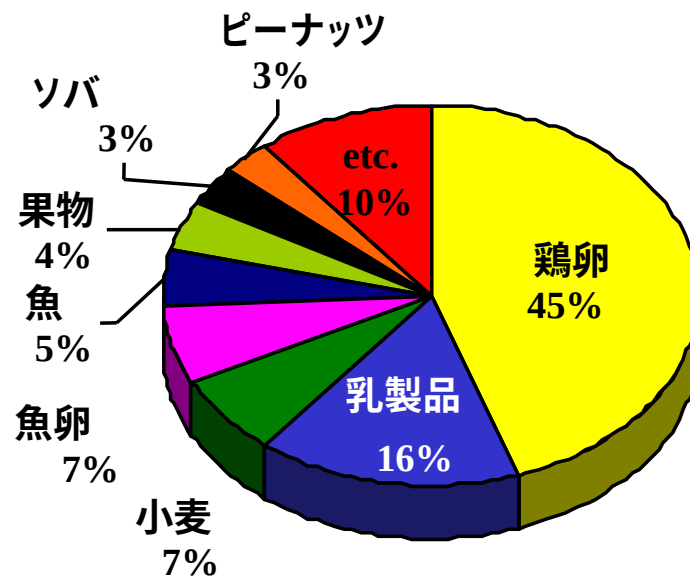
meat (n=71)	
Item	n (%)
chicken	32 (45.1)
pork	23 (32.4)
beef	11 (15.5)
duck	3 (4.2)
others	2(2.8)

tree nut (n=74)	
Item	n (%)
walnut	32 (43.2)
cacao	16 (21.6)
almond	7 (9.5)
cash nut	7 (9.5)
macadamia nut	3 (4.2)

甲殻類・肉類・木の実の内訳

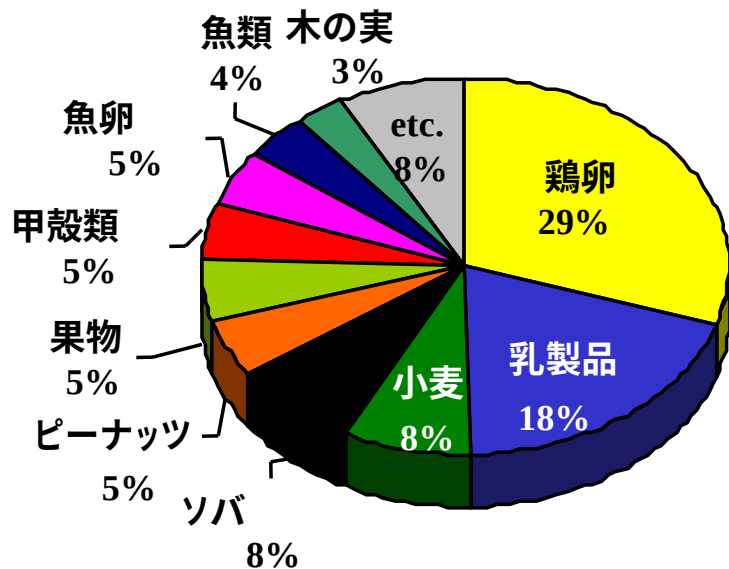


0 y
(n=1270)

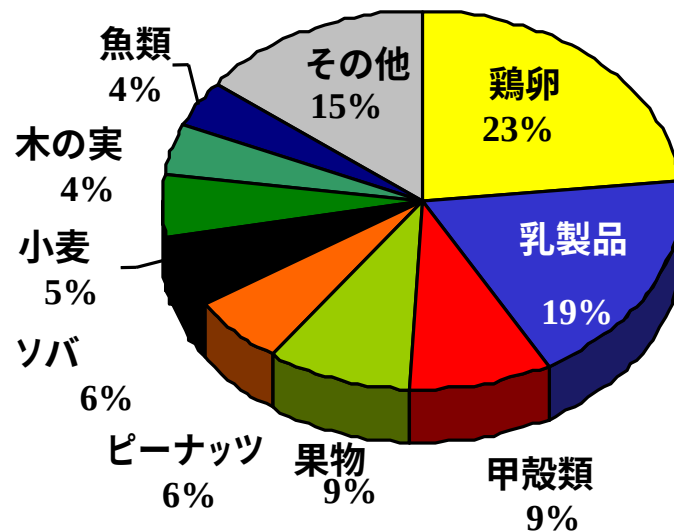


1 y
(n=699)

0才と1才での原因食品

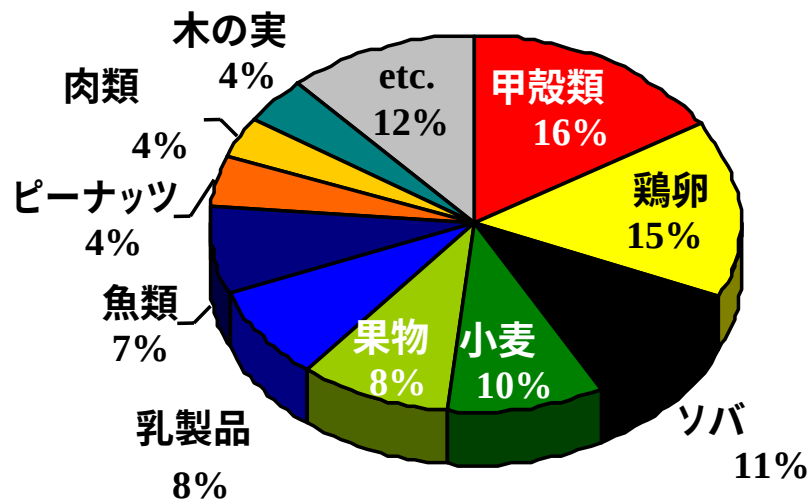


2&3y
(n=594)

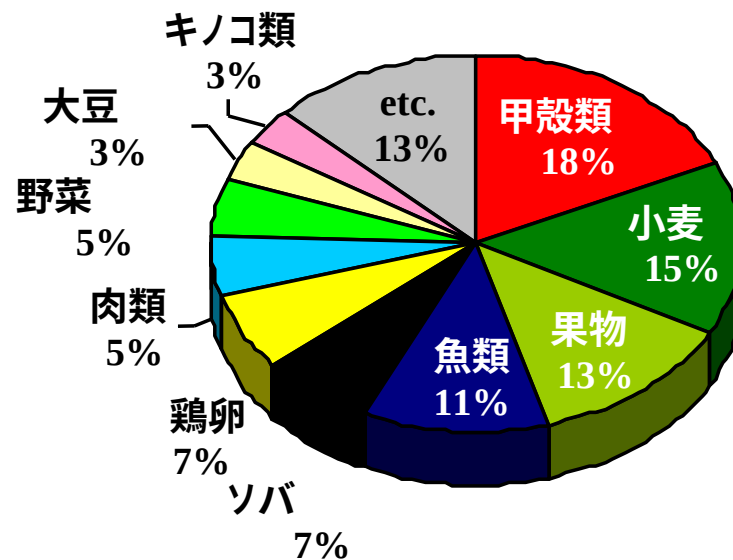


4-6y
(n=454)

2, 3才と4~6才での原因食品

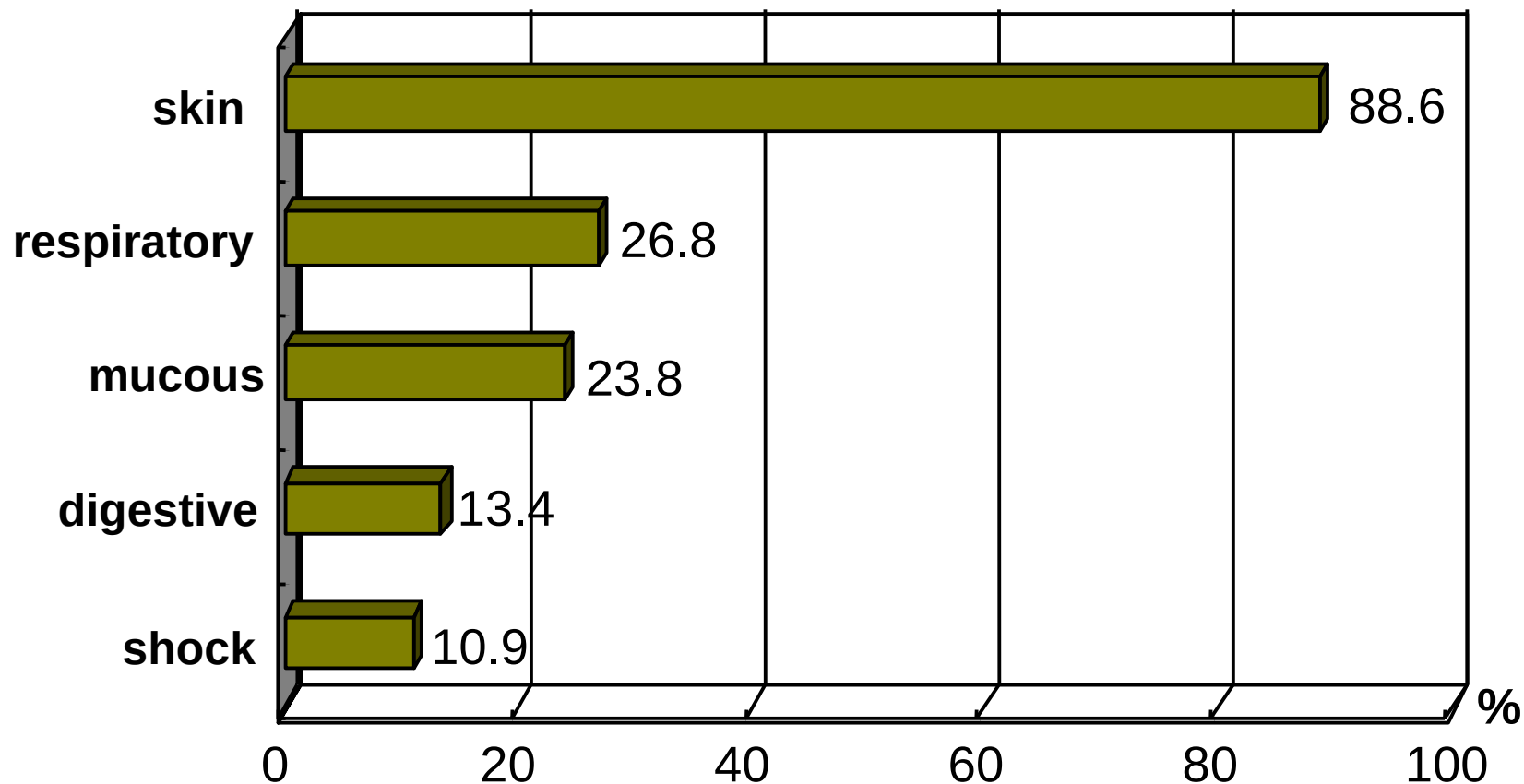


7-19yr
(n=499)



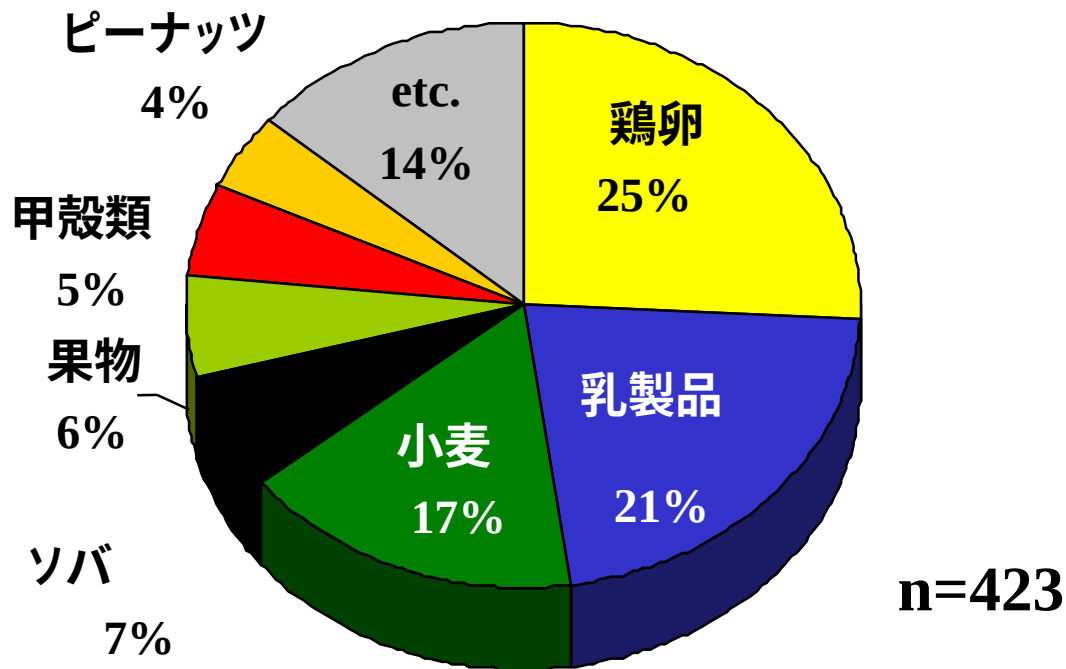
>20yr
(n=366)

7才～19才と20才以上での原因食品



n=3882

報告された即時型食物アレルギーの症状
(12.3% (465/3794) で入院加療を要していた)



Fruit : もも 8, キウイ 7, バナナ 4, など
Shellfish: エビ 14, カニ 3, など (cases)

アナフィラキシーの原因食品

(43.6% のアナフィラキシー症例で入院加療を要した)

